

文献管理ソフトのすすめ

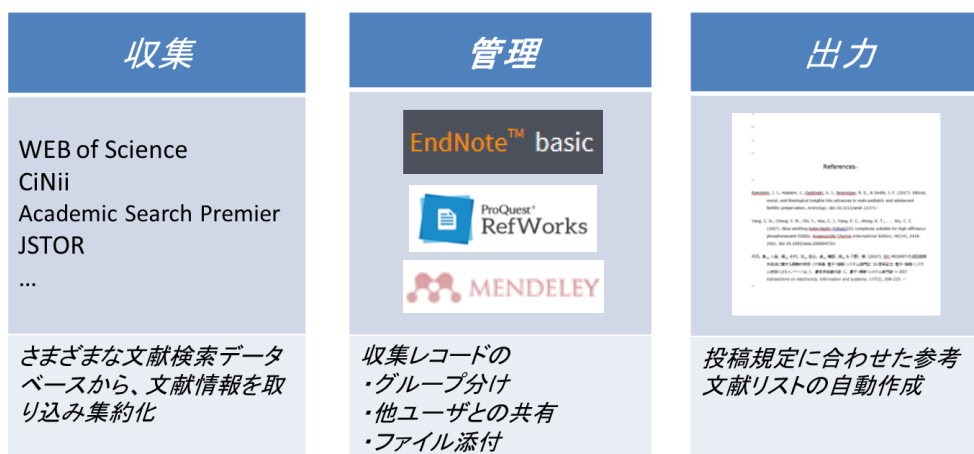
1.はじめに

レポートや論文を書く際の文献管理にわずらわしさを感じていませんか？収集した文献は文献管理ソフトを使うことで効率的に管理できます。ユーザー間での文献情報の共有や、参考文献リストの出力機能もあり、皆さんの研究活動をサポートしてくれます。

2.文献管理ソフトの機能

文献管理ソフトは概ね、以下の機能をもっています。

- ① 文献情報（タイトル、著者、誌名、巻号、ページなど）の**収集**
- ② 収集した文献情報の**管理**
- ③ 論文作成に利用する引用参考文献リストの**出力**



①文献情報の収集

- ・ OPAC、CiNii、Web of Science、PubMedなどの文献データベースから、文献情報を取り込むことができます
- ・ 論文PDFを取り込むことで自動的に文献情報を取得できるものもあります

②文献情報の管理

- ・ 文献情報をフォルダ分けして管理でき、作成したフォルダ単位で文献情報を他ユーザと共有できます
- ・ 各文献情報に論文PDFを添付して管理することができます
- ・ 取り込んだPDFにコメントを加えたり、ハイライトさせる機能をもつものもあります

③論文作成に利用するレファレンス情報の作成

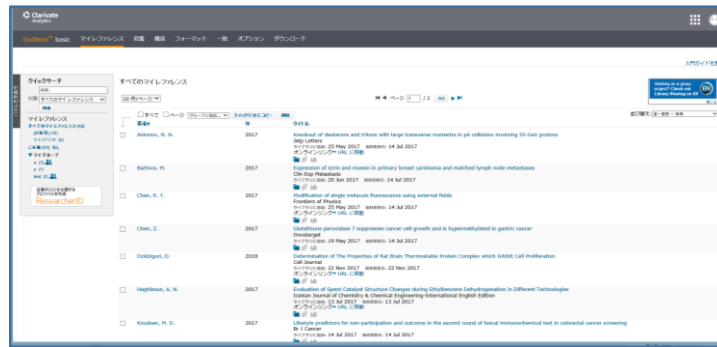
- ・ 引用・参考文献リストを、投稿規定に従った書式で出力できます（選択できる書式数はソフト毎に異なります）

3.ソフトの紹介

広く利用されている文献管理ソフトのEndNote basic、RefWorks、Mendeleyを紹介します。

いずれも本学構成員に提供しているバージョンになります。自分にあったソフトをご検討ください。

◆EndNote basic (クラリベイト・アナリティクス社) ※EndNote デスクトップ版とは別物です



特徴

- ・無料で利用できます
- ・日本語インターフェイスが用意されています
- ・ソフトウェアをインストールすることなく使用できます（データはWeb上に保管されます）
- ・利用できるディスク容量は2GB
- ・文献情報をユーザー間で共有できます（論文PDFの共有はできません）
- ・7000種以上の引用・参考文献書式に対応

利用するには

初回のみ学内ネットワークから以下へアクセスしてアカウント登録が必要です。

登録後は学外ネットワークからも利用できます。

<https://projectne.thomsonreuters.com/#/login?app=endnote>

最終利用から1年以内に学内ネットワークから利用することで、継続して利用することができます。

参考情報

- ・ENDNOTE オンライン クイック・レファレンス・ガイド

https://clarivate.jp/wp-content/uploads/2017/10/enw_qrc_jp.pdf

EndNote デスクトップ版について

basic版とは異なる有料ソフトウェアです。PCにインストールして使用します。

- ・ ユサコ社（国内総代理店）によるデスクトップ版とbasicの比較
www.usaco.co.jp/lancelot/common_files/images/public/ENb_hikaku.pdf
- ・ EndNote X9 クイックレファレンスガイド - ユサコ
http://www.usaco.co.jp/lancelot/common_files/images/public/EN_QuickReferenceGuide_Trial.pdf
- ・ オンラインチュートリアル- ユサコ
http://www.usaco.co.jp/products/isi_rs/video.html

◆ RefWorks (プロクエスト社)



特徴

- ・ 無料で利用できます
- ・ 日本語インターフェイスが用意されています
- ・ ソフトウェアをインストールすることなく使用できます（データはWeb上に保管されます）
- ・ 利用できるディスク容量は無制限
- ・ 取り込んだ論文PDFにハイライトやコメントをつけることができます
- ・ 文献情報だけでなく、文献ファイルも共有できます（学内ユーザー間に限られます）
- ・ 4000種以上の引用・参考文献書式に対応

利用するには

初回のみ学内ネットワークから以下へアクセスしてアカウント登録をします。登録には大学から発行されたメールアドレスが必要です。登録後は学外ネットワークからも利用できます。

<https://refworks.proquest.com/>

※Refworksのバージョンについて

Refworksには2つのバージョンがあります。本学では「新しいRefWorks」を利用することになります。次の選択画面が出たら「新しいRefWorks」を選択してください。

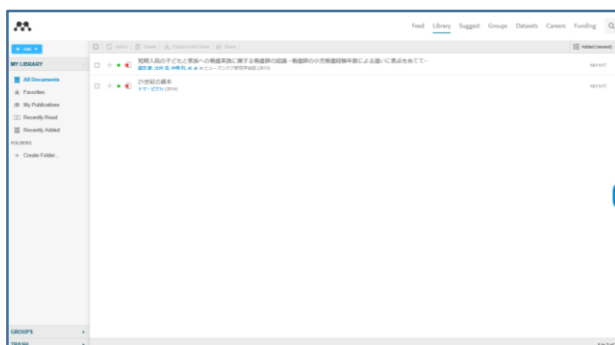


参考情報

- ・サンメディア社による解説

<http://www.sunmedia.co.jp/e-port/refworks/>

◆Mendeley (エルゼビア社)



特徴

- ・無料で利用できます
- ・英語インターフェイス（日本語インターフェイスはありません）
- ・デスクトップ版とWeb版を連動させて使用します
- ・利用できるディスク容量は100GB（機関版）
- ・論文PDFからの文献情報の取り込み機能があります
- ・取り込んだ文献PDFにハイライトやコメントをつけることができます
- ・文献情報だけでなく、文献ファイルも共有できます
- ・7000種以上の引用・参考文献書式に対応

利用するには

本学ではMendeley機関版を導入しています。以下をご確認の上、ご利用ください。

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/db/mendeley/mendeley.html>

参考情報

- ・エルゼビア社による解説

<http://jp.elsevier.com/online-tools/mendeley/users>

(クイックレファレンスガイド、オンライン講習会(スライド・動画・音声)が利用できます)

比較表

	EndNoteデスクトップ	EndNote basic	RefWorks	Mendeley (機関版)
利用形態	デスクトップ	Web	Web	デスクトップとWebを連動して利用
インターフェイス	英語	日本語あり	日本語あり	英語
有料/無料	有料	無料	無料	無料
文献情報の収集				
外部データベースからの直接取込取込 (ダイレクトインポート)	○ (700種以上)	○ (700種以上)	○	○
外部データベースからファイル経由でのインポート	○	○	○	○
論文PDFからの取り込み	○ (DOIの付与されたPDF)	×	×	○
論文PDFの管理				
取込んだ文献情報からのPDF自動ダウンロード	○ (文献レコードに対応する論文PDFを自動ダウンロードする機能)	×	×	○
PDF添付	○	○ (2GBまで)	○ (無制限)	○ (100GBまで)
ハイライトやコメントの付加	○	×	○	○
引用・参考文献書式	7,000種以上	7,000種以上	4,000種以上	7,000種以上
引用・参考文献リストのMS-Wordへの出力	○	○	○	○
ユーザー間での共有				
	100名まで共有可	文献情報はフォルダ単位で共有可。添付ファイルは共有不可	文献情報はフォルダ単位で共有可。添付ファイルは名大内ユーザー間でのみ共有可	フォルダ単位で文献情報、PDFともに共有可